株式上場に再チャレンジ

㈱ヒューマンテクノシステムホールディングス　菊池徹郎 社長

ソフトウエア開発の㈱ヒューマンテクノシステムホールディングスの社長に、6月27日付で菊池徹郎専務取締役グループ経営管理室長が就任した。「以前見送った上場にもう一度挑戦したい」と意気込む菊池社長に近況と今後の展望を聞いた。

（取材・西鶴央樹）

―就任から約3カ月、改めて経緯や意気込みを。

菊池　ようやく馴染んできたなという一方で、責任の大きさをひしひしと感じています。父（文彬顧問）が80歳を迎えた3年前辺りから交代の話は出ていましたが、正式に伝えられたのは昨年9月です。就任までは顧問による経営者勉強会を2歳上の兄（琢磨副社長兼㈱ヒューマンテクノシステム社長）と月1回受けていたほか、外部の後継者向け勉強会に参加するなど、準備を進めてきました。何事にも「社員第一」で考える顧問の姿を近くで見ていたので、その方針を継承し働きやすい職場環境の整備に力を注いでいきたいですね。

―石油元売り業界大手のENEOSを経て、2010年に入社されています。

菊池　はい。前職ではタンカーの運航管理の部署に配属され、その後総務部に異動しました。人事や採用、社員教育、法務、株主総会の事務局など、管理部門の業務を一通り経験しました。一方で、石油業界の再編で組織が大きくなり、やりがいを感じにくくなっていたのも事実です。そのころヒューマンテクノシステムは、総務担当者が退職し不在だったことから、少しは役立てるのではと考えて入社を決めました。いつかは地元九州に戻りたいと思っていたのも大きかったです。

印象に残っている業務としては、14年の持ち株会社制への移行があります。組織体制の整備やスキーム構築の勉強は非常に大変でしたね。また、移行を機にさらなる業容拡大に向けてIPOを志し、21年度の東証マザーズ（現グロース）上場を目標に準備を進めていました。その最中コロナ禍になり、責任者として最終的に上場を一旦見送る決断をしました。当時は社員がかなり疲弊しており、プレッシャーも相当だったはずです。今ではその判断は正しかったと思っています。

―今後どのような点に力を入れていきますか。

菊池　主力の金融機関や電力・ガス業界向けのソフトウエア開発、パッケージ販売などに加えて、生成AIやDX関連分野の見聞を広げていきたいですね。近年では、病気で声を失う方を対象にした自分の声の音声合成ソフト「ボイスター」、重度の構音障害を持つ方の発話を補助するソフト「コノコエ」など、福祉分野で弊社商品が活用されています。変化に迅速かつ柔軟に対応し、付加価値の高いサービスを全国で展開していきます。そして、優秀な人材を確保すべく株式上場にもう一度挑戦したいと考えています。目標は10年以内です。

―趣味はありますか。

菊池　スノーボード、スキーは腕前にも自信があります（笑）。あとは旅行ですね。これまで南米や北欧など海外45カ国に行きました。国内では城や神社仏閣を巡るのが好きです。

菊池（きくち）　徹郎（てつろう）
社長

福岡市中央区出身。1973年7月26日生まれの51歳。立教大学経済学部経済学科卒。97年4月九州石油㈱（現ENEOS㈱）入社、2010年7月㈱ヒューマンテクノシステム入社、同9月総務部長、14年6月取締役同、15年4月㈱ヒューマンテクノシステムホールディングス転籍・取締役総務部長、18年4月取締役グループ経営管理室長、20年6月常務取締役同、23年6月専務取締役同、24年6月から現職。趣味はスノーボード、スキー、旅行、城・神社仏閣巡り

DATA　［本社］〒812-0018 福岡市博多区住吉2-2-1 井門博多ビル イースト2F［創業］1997年6月（㈱ヒューマンテクノシステム・現㈱HTSライズ）［設立］2014年12月［資本金］8,000万円［売上高］37億9,000万円（2024年3月期連結）［従業員］265人（グループ）［事業内容］ソフトウエア開発、パッケージ・ソリューション販売ほか［関連会社］㈱HTSライズ、㈱ヒューマンテクノシステム、㈱HTSアクト